

コース名	ゼ口V	コース
科目名	簿記	
回数		回

3	枚中	1	枚目
サイン	井川		

建設業会計

Point 1 建設業特有の勘定科目

商工業	建設業
売上高	完成工事高
売上原価	完成工事原価
売掛金	完成工事未収入金
買掛金	工事未払金
前受金	未成工事受入金★★
仕掛品	未成工事支出金★★
製品保証引当金	完成工事補償引当金
債務保証損失引当金	工事損失引当金
損害補償損失引当金	

Point 2 収益の認識基準 (いつ売上高を計上するのか)

工事進行基準 ... 発生主義

工事完成基準 ... 実現主義

コース名	ゼロVコース
科目名	簿記
回数	回

講義録

3	枚中	2	枚目
サイン		井川	

< 設例 > 請負金額 30億円, 工期 3年
 工事原価 毎年8億円 計 24億円

◎ 工事完成基準の場合

	I 期	II 期	III 期
原 価	8	8	8
売上			30
完成工事高	0	0	30
完成工事原価	0	0	24
利 益	0	0	6

期間利益が平準化しない。

◎ 工事進行基準の場合 (原価比例法)

	I 期	II 期	III 期
原 価	8	8	8
売上	10	10	10
完成工事高	10	10	10
完成工事原価	8	8	8
利 益	2	2	2

期間利益が平準化する。

コース名	ゼ"ロVコース
科目名	簿記
回数	1回

3	枚中	3	枚目
サイン		井川	

Point 3 工事進行基準を採用している場合の名事業年度(原価比例法)の工事収益の一般式

$$\text{当期完成工事高} = \text{請負額} \times \frac{\text{当期末までの実際工事原価累計}}{\text{総工事見積原価}} - \text{前期末までの完成工事高}$$

↓
価値的完成度合

<設例1> 請負金額 100億円 内訳 { I期 15
II期 30
III期 25
IV期 10
総原価 80億円

④ 各期の完成工事高を求めなさい。

$$\text{I期} : 100 \times \frac{15}{80} = \boxed{18.75}$$

$$\text{II期} : 100 \times \frac{15+30}{80} - 18.75 = \boxed{37.5}$$

$$\text{III期} : 100 \times \frac{15+30+25}{80} - (18.75+37.5) = \boxed{31.25}$$

$$\text{IV期} : 100 - (18.75+37.5+31.25) = \boxed{12.5}$$

<設例2> 設例1のIII期において請負金額を117億円、III期の原価を30億円、IV期の原価を15億円に変更した場合のIII期とIV期の完成工事高はいくらか?

$$\text{III期} : 117 \times \frac{15+30+30}{80+(30-25)+(15-10)} - (18.75+37.5) = \boxed{41.25}$$

$$\text{IV期} : 117 - (18.75+37.5+41.25) = \boxed{19.5}$$

ポイント 請負金額及び原価の変更があっても、それ以前の売上高の変更はしない。

(∵) 日常的に起こりうるから。

-以上-